



JEG ニュースレター171号

www.jegschweiz.com

2019年7月15日発行

小さな証

長い旅路の末に到達した結論とは？仏教徒のタイ人を母に持つ一青年の証です。P2



一日修養会

6月9日、スイスJEGの一日のみの修養会がウスター市で開催され、学びと交わりの時を持ちました。P3



新シリーズ

6月23日から、マイヤー牧師の新説教シリーズ”聖書人物から祈りについて学ぶ”が始まりました。P3



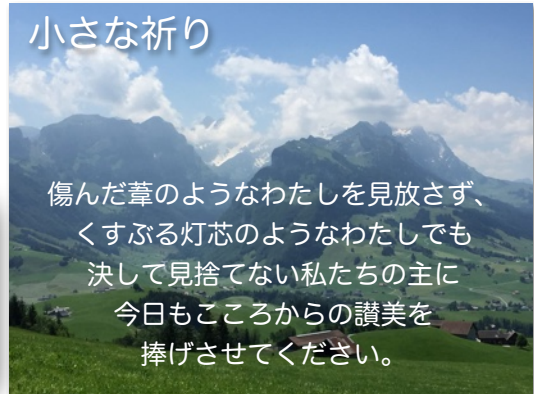
私とデボーション

キリスト者にとって欠かせない出来事と神様との対話であるデボーションについての兄弟の証をまとめました。P6-P8



小さな祈り

傷んだ葦のようなわたしを見放さず、くすぶる灯芯のようなわたしでも決して見捨てない私たちの主に今日もここからの讃美を捧げさせてください。



"私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。"

ヘブル人への手紙 6章19節

”朝の15分がその一日を決める”田辺正隆牧師が常々おっしゃっておられた言葉です。清々しい朝、み言葉に想いを巡らす時心は至福感で満たされます。NL編集部ではこの度スイスJEGの兄弟姉妹にデボーションのかたちについて尋ねました。



デボーション特集

ちいさな証

振り返ると、全てが神の計画

ティム・ベアー

スイス日本語福音キリスト教会



子供の頃、僕は信仰についてほとんど考えていませんでした。それより、僕は恐竜の化石や宇宙にもっと魅了されていました。夜空の星は何時間も飽きることなく眺めることができましたが、残りの人生では、全く手の届かない遙か遠方で星を眺めることしかできないと考えるのは寂しいことでした。

子供にしては、僕は平均的な子供より理性的だと思われていたかもしれませんが、実はそうではありませんでした。時には、死後に何が起るのだろうと考えたりしましたが、答えにたどり着く前に空想や哲学の中で、考えることを放棄してしまいました。考えられる理由の一つは、僕の母は仏教徒であり、僕の目には、人に存在意義を与えない仏教は、人生哲学より優れていると思えなかったことにもあるかもしれません。なぜなら、もっとも基本的な質問の答えは自分自身の理解と、その土地によって変わる仏教の教えの混在の中にあるからです。

J.T.さんが中学校で、僕に”死”についての考えを尋ねられたとき、僕はとても驚きました。合理主義や仏教的思想からは確実な答えは出せなかったもので、僕は単純に答えました。「僕には分からない、死については多くの考えや、説明の可能性があるのじゃないか。」そのあと、彼女の明確な答えを聞いたとき、僕は正直驚きました。しかし、この驚きはしばらくの間しか続きませんでした。

数ヶ月後、僕はキリスト教とは何かを説明する”アルファコース”に招待されました。実際、このコースはクリスチャンの信仰の本質を分かりやすく説明することができましたが、そのコースを通して僕は本当の信仰を持つことはできませんでした。しかし、僕はキリスト教を嫌っていたわけではなかったもので、毎週教会に行き始めました。僕にとってすべて新しかったのですが、その新しい環境にわりと早く慣れることができました。おそらくこの素早く順応できるという性格が、僕が心の底からイエス様を愛し命を捧げることに苦労した一つの理由だと思っています。

そして僕にはすべての古い性質が元通りに残っていました。数ヶ月あるいは数年前の僕と何も変わっていませんでした。例えば、アルコールに対する態度は変わりましたが、これは世的な

ものにすぎませんでした。霊的には、僕はあまり変わっていませんでした。

高校を卒業した後、僕は母の祖国タイで宣教師に出会いました。僕は母国タイで宣教師として生活してみたいという考えを持っていたので、宣教団体は僕を使うことができるかと尋ねました。数週間後、僕はタイへ向かう飛行機の乗客となり、これから過ごすであろう三、四ヶ月を楽しみにしていました。

長い空の旅の後、バンコックに到着したとき、僕はこの地で自分の命と人生をイエス様に捧げることができれば、ここが相応しい場所に違いないと思いました。僕は、神様との関係において、霊的に成長を見ることができるよう、祈りと、聖書勉強の日々を過ごしました。確かに、僕は毎日少しずつ神様に近づいていました。さらに、新しい環境は、聖書を学ぶ上で、僕を非常に助けました。信仰に燃える宣教師たちとの多くの会話や、彼らと

の日常生活は僕を大いに励まし、信仰の成長を支えました。このプロセスは、文字通り僕の人生を変えました。

僕は自分で自分自身を死から救うことができない欠陥のある人間であることを次第に実感しました。僕を助けることができるのは、神と人間の両方の性質を持ち、人としてこの地上に来てくださった神の子であるイエス・キリストです。イエス様の死は、不完全で罪深い僕を、惨めな暗闇の底から贖ない出してくださいました。その後、僕はついに自分の人生を完全にイエス様に捧げることができました。そして、このことは僕をととても幸せにしてくれました。これまで、神様の導きのなかった日は一日もなかったこと、そして、新しい一日を経験することが、まさに祝福であると確信しました。

振り返ってみると、それはすべてが神様の計画であったことがわかりました。僕は信仰を求め、それを貰いました。神様が僕とともに歩んでくれたことにとても感謝しています。今では、神様はすべての約束を守られると僕は確信しています。僕の人生で起こったことのすべて、特にタイでのかけがえのない時間を与えてくださった神様に賛美します。神に栄光あれ！

(翻訳：トムセン・チャーリー)



スイスJEGには暖かで愉快的な仲間がいっぱい



1. スイスJEG一日修養会

6月9日(日)の午前9時から午後5時半まで、スイスJEGの一日修養会がウスター市の公共施設frjzで開催されました。通年は、6月の第2週目にかかれる修養会ですが、今年は第3回イスラエル旅行が催行されたこともあり、一日のみの修養会となりましたが、42名の参加者は貴重な学びと交わりのときを過ごしました。昼食は持ち寄りの食材によるバーベキューとバラエティに富んだ自慢料理をビュッフェ形式で楽しみました。

一日修養会のマイヤー牧師によるメッセージ”み言葉の力”ならびに午後のメッセージ”み言葉に生かされて”の録画はスイスJEGのHP/礼拝メッセージサイトでご覧ください。[スイスJEGのメッセージ - スイス日本語福音キリスト教会のホームページによるこそ!](#)



話していただきました。CSチームは、今回のようなアフタヌーンティーに加え、ファミリー/子供向けイベントやクッキングのイベントなどを企画しています。



2. ハイスボルフ・マルチン博士によるメッセージ

5月26日(日)は、ゲストメッセンジャーとして、ハイスボルフ・マルチン博士(1991年から富山、横浜、軽井沢ほか日本の各地で宣教と教会の建て上げに従事。1987年から Bibel Studien Kolleg, Stuttgartで宣教学を講義。7人の子供の父親)を迎えて日曜礼拝を守りました。その日のメッセージ”東の国から三つの話”はスイスJEGのHP/メッセージサイトでお聴きになれます。なお、ヨーロッパ・キリスト者の集いが開催中の7月28日(日)にも、集いで奉仕されるマイヤー牧師に代わり、ハイスボルフ博士にスイスJEGで説教をしていただきます。



3. 新シリーズ

6月23日から、マイヤー牧師の新説教シリーズ”聖書人物から、祈りについて学ぶ”が始まりました。第1回目は、”ダニエルの祈りの生活から学ぶ”で、2600年前に捕囚の地バビロンに生きたダニエルの信仰と祈りの生活から、私たちが何を学び、日常生活にどう適用できるか、みことばを解き明かされました。第2回のテーマは、”モーゼの祈り方の変化”で、モーゼの祈りの生活から学びます。

4. アフタヌーンティー

5月20日(月)にチューリッヒ郊外にあるトムセン家にて、アウトリーチのイベントの一環としてアフタヌーンティーパーティが開催されました。7人の参加者のうちノンクリスチャン3名が与えられました。ゲルスタ元宣教師夫人がイギリスのティーパーティーの伝統や歴史の解説に加えて、ニコデモの話とともにご自分の証を



一日修養会のスナップ

5. トムセン・ハンス兄が受勲



令和元年5月21日、日本国政府は令和元年春の外国人叙勲受章者を発表し、スイスにおいては芸術分野における日本・スイス間の交流及び相互理解の促進に寄与された功績で、ハンス・ビャーネ・トムセン氏(チューリッヒ大学教授)が旭日小綬章を受章されました。おめでとうございます。

https://www.ch.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kunsho2019h.html

日本と日本文化を愛し、忍耐と知恵のいる活動を長年に亘ってなされたきた兄に感謝すると同時に、ハンス・トムセン兄に賜物を豊かに与えてくださった神様に栄光が帰されますようお祈りします。

6. ユースたこ焼き・グリルパーティー

7月6日(土)16時より、オルテンの今村家において、スイスJEGユースとストラスブル聖書のお話を聴く会のメンバーとの合同で青年会が開かれ、14名の参加がありました。初めにマタイの福音書18:15-35から聖書の学びとディスカッションの後、グリル/たこ焼きパーティーが開かれ、普段はドイツとスイス・フランスと遠く離れて住むイエス様を愛する若者たちが、一堂に会し、主のもとに貴重な交わりのときを持つことができました。



7. 第36回ヨーロッパ・キリスト者の集い開催まであと2週間

7月25日から28日までルーマニアのクルージュ・ナポカで開催される第36回ヨーロッパ・キリスト者の集いの開催まで、2週間をきり、準備作業も佳境に入っています。(スイスJEGから29名が参加。)

また、日本びいきの多いクルージュの市民のために、クリスチャンアーティスト7名による日本文化作品展が、かつての城壁であった歴史的建造物トゥルヌ・クロイトリローで25日(木)は14時から、26日から28日(日)までは10時から(いずれも閉館は18時)まで開催されます。土曜日午後には、ユースによる折り紙や書のワークショップも企画され、日本とルーマニアの文化交流の場ともなります。この展覧会が主の栄光を現すものとなりますようお祈りください。この文化展への出品作品や出展者の情報は、[日本文化作品展への出展者と作品例の紹介](#)をご覧ください。

8. 世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

オーニング宣教師、クッツ・プスキラ宣教師、フーサー香織・シモン宣教師、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル宣教報告、パリ教会パルタージュ、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れて、いつでもお読みできるようにいたしました。

ヨーロッパの教会／集会から

あなたの罪は赦されました

清水正夫

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会牧師

「わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている一主のことば一。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」（エレミヤ 29:11）



幼い頃から私は家族で教会に集っていました。けれども神の愛を本当に知り、新しく生まれたのは、就職し結婚してからのことでした。

25歳の時ドイツに転勤となり、妻と二人で張り切って赴任しました。ところがまもなく二人とも人間関係に悩むようになりました。一年後妻が言いました。「こんなに悩むのは教会から離れているからだと思う。」私たちは知人から聞いたデュッセルドルフ日本語教会に行くことにしました。

エンゲルモア先生と兄姉方に温かく迎えられ、毎週集うようになりました。みことばを聞くうちに少しずつ分かってきました。相手をさばく思いが自分にあること。これが罪であり、苦しみの根源であること。イエス様はそのような私を愛し、罪の身代わりとなって十字架で死んで下さったこと。

けれども私の心に平安はありませんでした。過去の罪と今も罪から離れられない弱さが私を責めるのです。決心してエンゲルモア先生のところに行き、罪を告白しました。恐れと惨めさに打ちのめされている私に先生が言いました。「清水さん、顔を上げてください」そして「イエス・キリストに代わって言います。」驚きとともに涙を押さえられなくなりました。二人で祈った後、先生は私を深く受け止めてくださいました。この日与えられた平安と喜びを忘れることができま

せん。デュッセルドルフ教会で二つの大切なことを教えられました。イエス様の十字架によって罪がすべて赦されること、聖書は誤りのない神のことばであること。



就任式にて 2018年11月25日

10年ドイツで勤務し、帰国後主から献身を迫られました。帰国の日に田辺正隆先生からいただいた冒頭のみことばに背中を押されて献身し、神学校で学び、日本の教会で16年仕えた後、パリ教会に導かれ、昨年8月から奉仕しています。主イエス様に感謝しつつ、欧州各地の皆様とともに仕えていきたいと願っています。

ミラノより・教会便り

渥美充代

ミラノ賛美教会伝道師



主の御名をほめたたえます。花や緑が一段と美しい初夏のミラノより教会便りをお届けします。ミラノ賛美教会では、先日「絵画から紐解く聖書」の講座が開かれ、初めて教会

に来られる人も含め多くの方々が集われました。

第一回はブレラ美術館所蔵のカラヴァッジョ作「エマオの晩餐」をとりあげ、作者本人が強く惹かれた復活のイエスと弟子たちの箇所(ルカ24:13~35)より、作者の生涯、この絵が描かれた当時の彼の心情を紹介しつつ、内村伸之牧師より大胆にみことばが語られました。

今回開催を告知した段階で周囲の反応も大きく「絵に何が描かれているのか知りたい」という興味、関心が高いということも改めて感じました。



カラヴァッジョ エマオの晩餐

海外に住むと、宗教画などに触れる機会が多くなりますが、その時に多くの日本人が聖書の知識を共有していない自分に気づくと言います。入口は知的好奇心を満たす文化的なアプローチであっても、実は聖書から福音がそのまま語られているというこの機会が用いられ、これからシリーズ化していき、大切な聖書のメッセージが続けて伝えられていくように教会メンバー一同で祈っています。



参加者と記念写真

ミラノ賛美教会の主日礼拝は、日本人、韓国人、イタリア人と共に礼拝を捧げていますが、それは子どもの礼拝も同じです。月に1回は日本人メンバーがメッセージを担当し、共通語のイタリア語で神様の愛、イエス様のことばを子どもたちに教えています。また日本人メンバーで捧げている木曜礼拝でシェアの時間を持ち、大人も子どもになって同じメッセージを味わいます。私たちにとっても子ども礼拝を考えて祈っていく大切な時間となっています。

また、5月末に冠動脈バイパス手術をされた主任牧師のイム・ユンサン先生が、先日リハビリを終えて無事退院されました。

現在は自宅で療養中です。イム師の快復のため、お祈りいただけましたら幸いです。



日出づる国から＋南半球から

東京での伝道が始まりました ローゼンクランツ・クリスチャン&直美 ジーザスコール東京チャーチ



ハレルヤ！
すばらしい主の御名を賛美します。

遠くスイスそしてヨーロッパから覚えて祈ってくださる皆様

のお祈りを心から感謝します。私たちも東京に来て2か月が経ちました。子供たちもそれぞれ中学、高校が始まり、新生活にもすっかり慣れたところです（まだまだ九州弁が抜けませんが）。

3つ目の開拓教会もビジョン新たに少しずつ進めています。土曜には渋谷に行ってチームで伝道していますが、渋谷のスクランブル交差点は、1日に3000人、1日に50万人が行き交うと言われています。そんな人込みを見ていると、イエス様の語られた「収穫は多いが、働き手が少ない。」（マタイ9:38）の言葉が心に響いてきます。

渋谷で伝道をする中で、集まってくる若者たちの食いつきがよく、そこで出会った人たちからも少しずつ集會に導かれてきていることを感謝します。



7月14日にはオフィシャルオープニングの集會をする予定です。同時に大学のキャンパスミニストリーのためにも準備していきたく思っていますので、ぜひ覚えてお祈りください。また、日曜の集會のために今借りているレンタルスペースではなかなか大きな音を出せないことも多く、といってもギターで賛美す

ることなのですが、みんなで控えめに賛美をしたり、わいわいしたりしているところです。どうぞ、のびのびと賛美できる場所が与えられるように、またそのための必要が満たされるようにお祈りくださると幸いです。

とりなしの祈りの手

永井敏夫
在欧日本人宣教会

6月7日（土）10:00から西荻チャペルで2019年度はじめての欧州宣教祈禱集會が開かれ、欧州の各日本語教会／集會を覚えて祈りを捧げました。

今回は最近までミュンヘンに在在していた平田仁美さんが来て、お証とバイオリン演奏（二曲）をしてください

ました。良く準備されたお証と演奏に参加者一同の心が柔らかくなりました。その後、ヨーロッパの教会から頂いた課題を記した葉をもとに、とりなしの祈りの手を挙げました。

一同がささげた祈りのひとつひとつが、主のもとに届いたことを思います。今回は、パリと南ロンドンに派遣されている先生方の日本の支援会の方々もおいでくださり本当にうれしく思いました。西荻チャペルを今回もお貸し今回くださった

高橋稔先生とみどり先生にも心から感謝します。



次回の祈禱集會は10月5日（土）

「ニュージーランドでの宣教師訓練開始」

矢部晶宏OM宣教師



スイスJEGを通してつながる愛する皆さんへ。



神さまの祝福が豊かにありますように。「ドイツ語圏でイエスさまを伝えたい！」と長い期間祈り準備し、オーストリア・リンツで奉仕する扉も開かれ、あとは出発するだけでした。しかし、Wonder-full（不思議に溢れた）な導きによって、主は私たち家族をヨーロッパから一番遠いニュージーランドへ置かれました。それは、

「宣教に出るのは、あなたたちの力によってではなく、わたしの力によってだ」という神さまのメッセージのようです。

クライストチャーチには12月まで滞在します。そこには、神さまの優しさと恵みが溢れています。文化が全然違う日本から直に渡欧するより、ニュージーランドの西洋文化や生活を経てオーストリアへ移る方が、ヨーロッパの生活によりスムーズに順応できると思うのです。

こちらでは、日本人教会と現地のミニストリーで奉仕をしながら、宣教師訓練を受けています。Facebookの非公開ページ『Y&Y Ministry』に週に一度近況報告と祈りのリクエストを載せています。ページにアクセスいただき、お祈りに覚えていただけたら幸いです。そして、2020年はじめにはオーストリアでイエスさまと人々に仕え、失われている魂に主にある希望を届けたいと願っています。渡欧した際には、ぜひJEGの礼拝に参加させてください。皆さまと共に主を礼拝できる日を心から楽しみにしています。

ネットでの小グループ・
デボーション (Net Group
Devotion) に感謝

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会

日々のデボーションを通して、聖書から宝を発見する喜びは、私たちの生きる糧です。宝の発見とは、みことばによって自己が探られると共に、主からの恵みの深さを新たにすることです。私たちは、そこからくる感謝と喜びに駆り出されて心から主に従うものでありたいです。この大切な営みを、信仰の友と共に励まし合いながら出来ればなお素晴らしいことです。

特に最近、自身の体験を通して、skypeなどを利用して行うNet Group Devotion が、大変素晴らしい方法だと実感しています。



今やNet会議はあらゆる分野で珍しいものではありませんが、このNet機能を積極的に小グループのデボーションに利用することは、それぞれの霊的成長、あるいは求道者の学びの場として、当初の想像以上に有効である事に感心しています。

特に、私たち海外に住む日本人は、日本語教会や家庭集会在が幾つかあったとしても地理的な隔たりのため、孤立しがちで、実際に集

まって信仰を強め合う機会を増やすには限界があります。しかし、Net Group Devotionはそれを補うだけでなく、これまでになかった利点があることを実感しています。

一つには、メンバーの居住地に依存しないこと、時間的設定が容易であること、したがって回数を増やすことができること、また、従来の家庭集会にも増して多様なメンバーの設定が可能という点です。「多様なメンバーの設定」というのは、(音声のみのグループ会話かむしろ広がりがあります。) 教会に集う兄弟姉妹だけでなく、例えば療養中で外出しにくい状態にある兄妹や、弱さを覚え顔を合わせるだけの元気もない兄妹も、交わりの中に入れることを可能にします。

これによって、みことばと祈りを通して、互に心を支え合うことができるのは、本当に素晴らしい点だと実感しています。さらに異なるケースですが、私たちは一人の友人(未信者)を交えた小グループが今年1月から与えられました。彼はかなり以前に一度だけ家庭集会に来ていただきましたが、最近の彼の言葉によると、



Skypeで気軽に始めることができたのは本当に良かったとおっしゃってくださいました。

そして、分厚い聖書を自ら購入され、学びも速いテンポで進み、24回目になった今週は、膝を突き合わせて家庭集会で一緒に聖書を読みデボーションを共にしました。朗らかに喜んで聖書に向かっておられる彼の姿に、私たちは感動し励まされました。主にあっての交わりは、何と豊かで喜びもたやすものかと主に感謝し褒め称えました。

P.S. Net Group Devotionについて、先日のスイスJEG修養会で、デボーションの奨めとともに紹介させていただきました。お問い合わせは原まで。i<k.hara@gmx.de>

共に語り合う場を共有できる恵み

黒田閑恵

チェコ在住



私たちのSkypeを使うデボーションが去年の9月から始まっています。「みことばの光」の計画に沿って聖書を読んでいます。もうひとつの方は、求道中の方を交えて今年になってから始まりました。お誘いはスイス教会の原兄姉からで、治療中の佐々木千恵子姉を励まし、遠くチェコに住む私も入れて、信徒の交わりの時を持ちましょう、というものでした。"朝6時から"にはショックを受けましたが、週に1回今も元気に続いています。もう1つのは晩8時からで、もう出勤もなく家事もないのでこう遅くまで話がはずむことがあります。

聖書を複数で読むことで、1人では気が付かなかったことに気づき、理解出来なかったことがわかるようになり、想像できることです。でも現実にはそれ以上に聖書を中心に語りあえる楽しさがありました。主が中心に居てくださるから、と同時に、言葉のやりとり、声の響きから来る暖かいエネルギーを感じることが出来ます。機械を通した声にもそれが感じられるのです。

私のようにポツンと離れて暮らす日本人は欧州各地におられることでしょうか。私の場合は、この4月から10年間通った日本語礼拝を離れ、日常的に通える教会がなくなりました。その時にSkypeデボーションで、原憲二兄、しのぶ姉、佐々木千恵子姉と共に聖書を読み語り、賛美し祈る時が与えられていることに、どれほど励まされたかをお伝えしたいと思います。そして、聖書により親しむことができたと感じています。



礼拝日の教会でしか会う機会がなくとも、今の時代にこのようなツールが与えられ、共に語り合う場が空間に共有できるチャンスをより多くの兄弟姉妹が使われれば良いな、と考えております。

全てを主に感謝して、

なんと感謝なことでしょう

佐々木千恵子

シュトゥットガルト日本語教会

主を賛美いたします！ハレルヤ！

スカイプで、早朝6時から”おはよう！”っと4人のメンバーが喜びをもって集まり、ともにデボーションをさせていただいてます！みんな離れたところに住んでいるので、共にデボーション

ンできるのは、インターネットがあればこそその醍醐味です。映像画面はなしで、寝巻のまま集まれるというのはとても気が楽です。

聖書個所のわからないところを、気軽に質問でき、これって場所どこ？と質問すると、画面にイスラエルの地図をだしてくださったり、”このみ言葉の意味がよくわからない！”と質問しますと答えてくださり、また聖書辞典をみて回答を探してくださったり、アッソーっか！っと、閃光のように神様からの語り掛けが頭のなかに走ることもあります。

一人では到底分からないことも、一緒にやるからこそ分かち合って理解できる素晴らしさがあります。そして力をうけます。また、一緒に個人的なことを祈り合えることも感謝です

原兄弟の司会も素晴らしく、クリスチャンの集まりがもたらす喜び、暖かさ、安心感、励ましを聖書を通してのみ言葉の持つ力と神様からの語りかけをいただいています。このネットを使ってのデボーションの発端は、原夫妻のお膳立で、私が病気であることで、みんなで励まそう！との優しい心遣いから始まりました。なんと感謝なことでしょう！

神さまは、この私の病気をもちいて、おおきな恵みをくださっています。メンバーの方々に深く感謝！



私とデボーション

イエスさまの収穫とは

藤原誠

スイス日本語福音キリスト教会

「あなたは、いつもあなたのすぐ目の前におられるイエス様を無視して歩んでいませんか？」今から5年ほど前に聞いたルカの福音書5章からの聖書メッセージの中で、そのメッセンジャーはこのように問いかけました。大漁の魚が獲れたことを目の当たりにしてペテロにとってイエス様が「他人」から「主」に変わったように、身をもって救いを体験した私には、もはやイエス様を無視して歩むことはできません。私にとって、デボーションはいつも私の目の前におられる私の主を思い出す時間です。

最近デボーションを通してマタイの福音書9章から語られたことを一つシェアしたいと思います。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。(マタイ9章37-38節)」

この御言葉は、”私たちの周りには未信者があふれるほどいるのに、伝道者が足りないから伝道者が与えられるように祈りなさい。”と解釈され、伝道説教でよく引用される御言葉です。私自身もこれまでそのように理解していました。しかし、この聖書箇所を前後をじっくり読む中で気づかされたのは、イエス様のこの発言は、羊飼いのいない羊の群れのように弱り果てて倒れていた人々を深くあわれまれて(マタイ9章36節)の発言なのです。

イエス様は会堂で御国の福音を宣べ伝えると同時に、目の前にいる苦境の中にある人、弱っている人を深く哀れまれ、理由を問わず癒されました(マタイ9章35節)。イエス様が言う「収穫」とは決して「教会が獲得できる人員」ではなく、「弱り果てている人々」なのです。そして、イエス様が言う「働き手」とは、そのような人々に手を差し伸べる人々なのでしょう。私たちは主イエス様と同じ視点を持って周りの人々を、そしてこの世界を見ているだろうかと考えさせられ



ました。

冒頭で述べた「いつも私たちのすぐ目の前におられる」主が、私たちを見張りきちんと働くように取り締まるような方だとしたら、私たちのこの地上での信仰生活はなんと息苦しいことでしょうか。

しかし、いつも私たちの目の前にいてくださる主はあわれみ深い癒し主であり慰め主です。その愛を知った者だからこそ、自分自身も今置かれているこの地において慰め主なる主イエス様の働き手として歩みたいと思わされました。

御心のなる時まで

脇山多恵子

スイス日本語福音キリスト教会



スイスで生活するようになってから病が与えられ、しかも日本語しかできないわたしにとって、月二回の礼拝はとても大切なものです。でも、それだけでは御言葉を深く理解することは無理です。日々、神様と個人的にふれる時を持つことが必要不可欠であることを学びを通して教えられています。私は「みことばの光」用いて、毎朝、み言葉を通して神様に会う時が与えられています。

毎回、同じ時間ではないのですが、箴言を一章ずつ、黙示録を声に出して読む、そして暗唱聖句を覚え、反芻することも日課になっています。(毎年、主人と場所を決めています)

『継続は力なり』という言葉もあります。みことばの学びを続けることによって、神様に近づき、神様の偉大さを知り、その神様の愛と恵みの中で生かされていることがわかると、感謝の気持ちが心から溢れ出てきます。

みことばの学びがなかったら、神様がどんなお方で、どのような計画を持っておられて、これからどうなっていくのかを知ることもなかったと思います。



私とデボーション

私たちのように、先に救われている者は、すべての創造主であられる神様の御心になる時まで、歯車の一部のように、よき働きができるように、もっともっと神様に近づき、主の栄光を映し出すことができますように、そして神様の御言葉である聖書の学びを怠ることがないようにこれからも求めつつ祈り、主と共に歩み続けていきたいと思えます。

神様に自分を明け渡す

トムセン千香子

スイス日本語福音キリスト教会



私のデボーションは9月から6月までは、10年以上参加しているバイブルスタディフェローシップ(BSF)のテキストを使い、夏の間は特に決まったテキストはありませんが、ユーバージョンなどを使っています。

できるだけ午前中に時間をとるようにしています。朝にみことばを読むと、一日中、折につけ、そのみ言葉を思い出し、家事をしながらでも考えることもできます。時には賛美歌が心に浮かんできます。

以前はノートに心にとまったことを書き留めていました。やはり書き記すと後から読み返すこともできますし、もっと心に残ります。暫く書き記すことを中断していましたので、また再開したいと思っています。

デボーションとは、神様に自分を明け渡すということですから、ただただ耳を澄まして、神様のかすかな声を聞こうと努めます。でも時には我慢しきれず、つつい私の願い要求を神様に話してしまいます。それはいけないことではないのですが、できるだけ聞くことに集中したいと思えます。

どうしても声を出したいと思うときは、同じみことばを声にだして何度も読んだり、賛美歌を歌ったりします。時間は全体として5分から10分です。最後は感謝や賛美のお祈りで終わります。

